実施要領　様式５（第７条第２号関係）

自己評価票

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
１．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で自分らしく楽しく暮らしていただけるような理念を作成している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を達成する為、目標を作成し職員全員で日々取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・日々の生活内容を家族、地域にグループホーム安心住宅便りとして配布している。 ・玄関の正面と介護ステーションの前に掲示し常に職員が確認できるようにしている。		
２．地域との支えあい				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	・地域の皆様とは、日頃より気軽に挨拶を交わすよう心がけている。また、季節の野菜や果物をいただき何時でも立ち寄っていただけるようにしている。 ・地域の子供達も休みの日には、気軽に遊びに訪れている。 ・社協の広報とは別にホーム便りを地域に配布したり実習生を受け入れ事業所の持つ専門性や実践経験を地域の皆様に還元している。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用				

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・全職員が自己評価の活用方法を理解し、外部評価結果を話し合いサービスの提供につなげるための取り組みをしている。		
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、外部評価結果を報告し意見交換を行い、サービス向上、改善に取り組んでいる。		
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの実態等を理解してもらうために、パンフレットの提出、外部評価の結果を提出、報告を行い、課題解決に向け助言を受けサービスの質の向上に取り組んでいる。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	内部研修の実施にて権利擁護事業や成年後見制度について理解を深める取り組みを行っている。すでに２名の入居者の方が権利擁護を利用されており、担当者や協力委員との面識もあることから理解されている。必要に応じてその人を取り巻く関係者と検討し対応を図っていきたい。		
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止法に関する理解を深めている。当ホームとしては、日々の慣れから言葉による暴力・虐待にならないよう入居者の皆様を敬い細心の注意を払って努めている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、不安・疑問点を尋ね重要事項説明書にて十分な説明を行い理解・納得の上で契約を交わしている。		
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し意見・苦情が出た際、管理者・職員で速やかに対応を図れるようにしている。また、苦情処理委員会を設置し対応を図るようにしている。		
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員の異動、日々の状況等について報告している。また、健康状態や受診結果について電話や面会時、個々に合わせて報告している。金銭管理については、請求書と一緒に毎月、収支決算を送付している。		
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理委員会を設置し何時でも対応出来るよう入居時に説明している。		
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日常の会話の中で意見を聞き反映させている。		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ホーム内での職員の配置が困難な場合には、本部と連携を図り職員の確保に努めている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者、職員は、担当者の交代による入居者への影響を理解しており、日頃から顔馴染みとなる機会を設け、移動等の際にはスムーズに馴染めるよう心がけている。		
５．人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、研修計画や資格計画を作成させ、法人内外の研修を受ける機会の確保に努め、自己研鑽に取り組んでいる。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内でグループホーム連絡協議会を設置交流会を開催し日頃の疑問点を話し合っている。解決できない問題点に対しては、町担当者や西北五地域認知症高齢者グループホーム協会の意見を参考にサービスの質の向上を図る取り組みをしている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務日報や面談、ミーティング時に日頃からの悩み等を話し合える雰囲気作りを行いストレス解消の軽減に努めている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は月１回は必ず訪問し、職員が向上心を持って働けるよう声がけを行い、勤務状況を把握している。また、資格取得の奨励を行っている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に見学をしていただいたり、本人が困っていること、不安や求めていることに対して話を聞く機会を作り、受け止めるように努めている。		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当のケアマネージャーを交え、事前に施設見学を行い家族の困っていること、求めていること等を聞く機会を設けている。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学に来てもらい雰囲気を味わってもらったり、利用者と顔馴染みになっていただくことで不安なく過ごせるよう心がけている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の場に入居者が活躍できる機会を作り、持っている力を発揮できるよう、その時々の状態や状況、他入居者との関係を考慮しながら一緒に行っている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望を念頭に置きながら一緒に本人を支援する関係を築いている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に日々の様子を伝えたり、本人の希望を伝え家族との絆が途切れないよう努めている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	夫の墓参りに出かけたり、他施設に入居している妻に面会に出かけ馴染みの関係が途切れないよう支援を図っている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う入居者同士の関係を把握した上での席の組み合わせを考えたり、コミュニケーションを図ることで孤立しないよう努めている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も家族の相談に応じ、関係を断ち切らないよう努めている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1．一人ひとりの把握**				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思い出を把握し本人本位で生活できるよう支援している。		
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のプライバシーに配慮しながら情報収集に努めている。		
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりに日々の暮らし方やリズムの把握に努め、出来る事と出来ないことを見極めた上で、出来る事を優先的に支援するよう努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らす為の介護計画を作成するため、月１回のカンファレンス開催している。		
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリング、状態、状況変化に対しその都度話し合いを持ち、現状に即した計画を作成している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人ファイルに記入し、情報を共有しながら実践している。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の移送を行っている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域住民や民生委員、駐在所や消防署等からの協力を得られるよう働きかけている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在のところ利用する方がいない。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護を利用している入居者はいる。町の地域包支援センターはグループホームと共同できる体制に無い。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関へ受診を行っている。受診結果については、家族、本人に伝え状態の共有を図れるよう連絡を取っている。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地元の総合病院や個人病院に認知症に詳しい医師がいる為、相談したりアドバイスを受けている。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力病院に設置している地域連絡室の保健師、看護師に何時でも相談し助言を得られるようにしている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院に向け家族や担当医と話し合いを持ち入居者の情報交換を行う体制が整えられている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者や家族、医療機関と話し合いを持ち対応を図っている。		
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期には対応をしていない（協力施設に移行したり、協力病院への入院を依頼している）。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	アセスメントやケアプランを提供し、最小限のダメージで移行できるよう情報交換を行っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** **(1)一人ひとりの尊重**				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、言葉遣いに気を付け、入居者を尊重し一人ひとりに合った接し方をしている。また、プライバシーに配慮した業務を常に心がけて行っている。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	家族から情報を得て嗜好等の把握に努めている。また、１人ひとりに合った説明や働きかけを行い、自己決定ができるよう働きかけている。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり自分のペースで過せるよう支援を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	歩ける方は、地域の理容店に行ったり、歩けない方には、ホームに来ていただき、思い思いの髪形にカットしてもらっている。また、出掛ける際、自分で外出着を選んだり、汚れが見られた時は速やかに着替えをしていただき常に身だしなみには注意を払っている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに合わせたり、疾病に対して考慮しながら提供し、職員も一緒に同じ物を食べている。食材の下ごしらえや食事前のお絞りだたみ、食器拭き等を持っている力を活かしながら一緒に行っている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やタバコはホームとしては禁止しているが、それ以外に付いては、本人の好みの物を把握し提供するよう心がけている。		
53	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	訴えの無い時、尿意がない方、排泄チェック表にて確認し、トイレで気持ち良く排泄を行っていただくよう声掛けにて誘導を行っている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	１人ひとりの希望する温度や希望する入浴形態で対応している。週２回の入浴を楽しみにされている。入浴が無い時は、足浴を行っている。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	習慣にて睡眠薬を飲まれている方も１名いる。一人ひとりの睡眠パターンを把握し眠付けない方にはコミュニケーションを取ったり、飲み物を提供し心地よく眠れるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝食と昼食後に食器拭き、オシボリだたみ、洗濯だたみ、ゴミ袋の名前書き等を依頼し、一人ひとりに合った役割を促す働きかけを行っている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる範囲内の金銭は所持し買物時には支払いを行えるよう支援を図っている。中には、所持しなくても良いと言う方も居る。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や体調に合わせホーム前を散歩したり、外出の頻度を増やすようにしている。また、外出先には入居者や家族の希望を取り入れるようにしている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お帰りに自宅に立ち寄る方、お盆には墓参りをされる方、出来る限りの支援を行っている。また、普段行けない所へ他入居者と一緒に出掛けたり、個別の妻の入所されている施設に出掛けたり機会を見つけ支援を行っている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば何時でも対応を図っている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	「安心住宅に入居されて良かった」と思っていただけるような雰囲気作りを心がけている。また、希望によっては宿泊も出来るように寝具等を準備している。		
（4）安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については理解しており、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。まれに身体拘束をしなければならない場合には、家族にその旨伝え、説明を行い同意の下で行うようにしている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室に鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ベットや居室、トイレに鈴を下げ、利用者の所在の把握に努めている。また、居室やトイレに長く入られている方には、声がけを行い様子確認に努めている。夜間は、定期巡回を行い状態確認を行っている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所や方法についてマニュアルを作成し具体的な取り決めを行い実行している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の方には、滑り止めの靴下を履いていただいている。手に薬を乗せ飲み終わるまで見守りを行っている。また、ひやりはっとにて今後の予防策について話し合いを持っている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応のマニュアルを作成し連絡方法を念頭に入れている。同事業所の看護師から応急手当について指導を受けている。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者の下、年２回避難訓練を実施し、運営推進会議にて地域の皆様に協力を依頼している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	自分のもっている力以上の物を発揮しようとするため、家族にその旨説明理解を得ている。入居者の状態変化等に応じて対策を取っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調管理として毎朝のバイタルチェック、顔色、食欲等の把握に努め、入居者の異変の兆候を見逃さないよう全職員に徹底している。また、必要に応じて協力病院に指示を仰ぎ情報の共有を図り、その結果を家族に連絡したり、記録として残している。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、個人ファイル、薬の保管かごに入れ何時でも確認できるようにしている。又、服薬時には、１人ひとりに手渡し飲み終えるまで確認したり、服薬チェック表にて飲み忘れがないよう努めている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は、便秘について理解し、水分、食物繊維の摂取に心がけ、それでも駄目な時は、医師に相談し下剤を服薬しているが、本人の状態(薬の効果が違う）に合わせて対応を図っている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、自分で出来る方には歯磨き・うがいの声掛け、出来ない方には職員が義歯洗浄を行い本人にはうがいをしていただき、口腔ケアに努めている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量、栄養バランスについて、チェック表に記録し把握に努めている。又、旬の物を取り入れた献立を立てたり嗜好を把握し取り入れるようにしている。また、疾病の服薬から食材に制限のある方については、医師の指示にて実施している。社協本部に栄養師の資格保持者がいるのでカロリー計算を依頼し助言を受けている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し、早期発見に努めている。食事、食器拭き前には、手にあるアルコール、食器等にもアルコールを噴霧し消毒に努めている。感染症に対する情報を家族にも提供している。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	オシボリ、布巾等を毎食後に漂白剤に浸けアルコールを噴霧後に乾燥させて使用している。日々食材を点検し早めに使い切るよう心がけている。又、食べ残しに関しては、２４時間を目安に処分し食中毒の予防に努めている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気に努め、誰でも気軽に出入りできるように努めている。また、玄関の壁には入居者の作品を飾っている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた、オブジェや外出した際の写真を壁に貼ったり、向かいの田んぼを見て季節感を感じている。日差しが強い時は、カーテンを掛けたり、天候が悪い時は、電気を点けたりしながら室内の明るさに気を付けている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にて気の合う方とお喋りをしたりテレビを観て過ごしている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	夫の位牌を持参されている方も居る。居室作りとしてテレビの上に家族や知人の写真やぬいぐるみを飾ったり、壁に飾ったりしながら明るい雰囲気になるように工夫をしている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日差しが強い為、カーテンを掛けたり、換気扇をつけたり、窓を開けたりしながら温度調整に努めている。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりを設置、ベッドは介護用で１人ひとりに合った高さで使用していただき、自立した生活が送れるようにしている。歩行困難な方には、車椅子にて過ごしていただいている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室には、のれん、顔写真や名札を下げたり、トイレや浴室には、手作りの表示を貼り分かるようにしている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居間や廊下は、毎日ラジオ体操や歩行訓練に使用している。また、窓からは農園を見たり、田園風景に囲まれている為、自然を肌で感じ穏やかに過ごしていただいている。		

（ ▒▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）	
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項　　目		取　り　組　み　の　成　果 （該当する箇所を○印で囲むこと）	
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

人生の先輩である入居者の皆様を尊重し、思いやりの気持ちを忘れず職員同士、楽しく暮らしていただけるよう協力している。